

先端研究拠点事業—国際戦略型—
「ソフトマターと情報に関する非平衡ダイナミクス」
セミナー・シンポジウム 派遣報告書

2014年 9月 12日

| | |
|---------------------|--|
| 氏名(ふりがな) | 小松尚登(こまつ ひさと) |
| 所属機関・部局・専攻内の所属分野 | 東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 |
| 身分・学年 (学生の場合は指導教員名) | 博士課程1年(指導教員: 福島孝治) |
| メールアドレス | komatsu@huku.c.u-tokyo.ac.jp |
| 電話番号、FAX | 03-3387-1073 |

| | |
|--------------|---|
| セミナー・シンポジウム名 | Spin Glass 2014 |
| 場所(国名・都市) | Cargese, Corse(フランス領) |
| 派遣期間 | 8月24日～9月6日 |
| セミナー等の日程 | 8月25日～9月6日 |
| URL | http://cargese.krzakala.org/ |

スピングラス理論とその応用に関する講義を聴き、この分野の最先端の研究に触れたり、他の研究者の方々と食事などを通して交流を深めたりといった、充実した二週間を過ごした。更に、8月29日のポスターセッションなどの、自身の研究を国際的な場で紹介する機会も頂いた。

また、他の研究室から参加した学生の方々と講義時間外に議論をし、液体論等の、自身の研究テーマとの関わりの深い分野に関する計算手法やモデルの選び方などに関する様々な知識を得ることが出来た。現在、自身の研究において、固体流体転移の"平均場モデル"と表現すべきモデルを構成しており、次の目標として、そのモデルを上手く活用して他の古典粒子系の固体流体転移を記述するための"平均場近似"の方法を模索している段階であった。そのため、今回得られたこれらの知見を用いることで、今後研究を進める際に、始めにどういったモデルから研究し、また、どういった理論との比較、対照を行うべきかといったことに関する指針を得て、自身の研究が大きく進む可能性を得たと考えている。